

<全体分析>

解答時間

50分

問題数

31問

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

| | | | |
|--------|-----------------------------|---|-----|
| (1) 構成 | 大問 | 5 | 問構成 |
| (2) 分量 | 変化なし ← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 | | |
| (3) 難易 | やや易化 ← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化 | | |

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

大問構成や出題の順番は、5年連続で変化なし。配点や小問数についても、昨年度と同一。出題様式に関して、第一・二問は昨年度とほぼ同一であったが、第三問においては、初めて、筆者が異なる二つの文章からの出題が行われた。第四問については、昨年度は漢文が出題されたが、今年度は漢詩の出題。また、第五問においては、平成29(2017)年度以来の「読書」を題材とした二百字作文が課された。

<大問分析>

| 大問 | 出題分野・テーマ | 設問内容・特徴・解答の注意点など | 小問数 | 配点 |
|-----|----------|---|-----|----|
| 第一問 | 国語知識・対話文 | 漢字の読み書きは、記述式・択一式どちらでも出題があり、昨年度と同一の構成。読みは中学校で習う漢字、そして書きは小学校で習う漢字から出題されていることについても変わらない。問四(三)について、話し合いの内容を正しく整理した表を選択するという、初めての形式で出題されたが、解答根拠とすべき箇所は明らかであり、難易度としては低い。 | 14 | 30 |
| 第二問 | 文学的文章 | 昨年度に引き続き、比較的平易な語彙が多く、ダイアログも多いので、文章そのものは読みやすかったのではないかと。書き抜き問題・択一式の問題は難易度は低い。問五について、昨年度同様、主人公の心情を問う記述式問題が出題された。傍線の近くに「～したいんだ、と。」と結ばれている文があるため、そこを用いれば部分点を狙うことはたやすいのではないかと。 | 6 | 20 |
| 第三問 | 説明的文章 | 【文章Ⅰ】【文章Ⅱ】として、筆者が異なる二つの文章から出題された。しかし、二つの文章両方から解答の根拠を探してまとめ上げるといことは、ほぼ要求はされなかった。問一～問四までは、あくまでどちらかの文章から解答そのもの、あるいは解答の根拠を探し出すことで十分に得点できる。ただし、問五については、二つの文章に共通するテーマに気づくこと、かつ、【文章Ⅰ】を要約することを要求されているので、難易度は若干高い。 | 6 | 20 |
| 第四問 | 漢文 | 昨年度の漢文の出題に引き続き、今年度は漢詩が出題された。しかし、書き下し文には、ほとんど現代語訳がついているので、高度な古典の知識や読解力が要求されているわけではない。問一と問二は、いずれも知識を問う問題。問三について、「にぎわう市場」という言葉から、「数が多い」ということが連想できたかどうかのポイント。 | 4 | 10 |
| 第五問 | 作文 | 指定字数は例年通り160字以上200字以内である。「読書の魅力を伝えるキャッチコピー」として、「読書はあなたは□につれていく」というコピーの□に入れる言葉を考え、その理由を合わせて述べる問題。□に入れる言葉は、選択式ではなく、受験者自身で考案しなければならない。 | 1 | 20 |

<学習対策>

記述問題以外でなるべく失点を抑えるという戦略は、今後も大きく変えなくてよさそうだ。ただし、記述問題に関しては、文学的文章においても、説明的文章においても、今年度は多くの受験生が満点には至らずとも、解答に用いるべき箇所を本文中から探し当て、部分点をもぎ取ることができたのではないかと。また、第四問や第五問が、平易な問題・テーマであることも大きい。説明的文章においては、宮城県においては初めての出題形式が採用はされているものの、他県の問題に触れておくことで、十分に耐性はつけられるものとする。したがって、今後の対策としては、①過去問を直近5年以上は解く ②他の都道府県の問題(色々な問題形式)にも触れる ③説明的文章の読解問題を解く際には、要約も書いてみる 以上3つを相変わず推奨したい。過去問で体裁に目を慣らしつつ近年の傾向を掴み、他の都道府県の問題にも多く触れることで、「何が・どのように」出題されたとしても、パニックに陥らず、冷静に対応できるような力を醸成してほしい。また、文章の要約を書く場合には、必ず添削を受けること。

数学

ひのき進学グループ 二高一高必勝館・ひのき進学教室・ひのき個別館

令和5年度 宮城県公立高等学校 入学者選抜学力検査分析

<全体分析>

解答時間

50分

問題数

25 問

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

| | | | |
|--------|----|------|------------------------|
| (1) 構成 | 大問 | 4 | 問構成 |
| (2) 分量 | | 変化なし | ← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 |
| (3) 難易 | | やや難化 | ← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化 |

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

大問構成は例年通りの四問構成で変更なし。配点についても昨年度と同様であった。第二問では、難易度は教科書と同程度であったが、設定された問題文から条件を正確に読み取ることができなければ得点は難しかっただろう。配点も、昨年度同様8問中4問が5点配点になっているため、差がつく部分であった。第三問も昨年同様に確率と1次関数が出題された。最終問題以外は難易度が高くないことから、確実に得点したい。第四問の平面図形の問題では、最終問題以外は平易なものが出題されており、その最終問題も前問までの誘導を見つければ解ききることも可能であった。全体としての難易度は高くないものの、第二問で点数を取れたかどうかで合否に影響が出る試験であったといえる。

<大問分析>

| 大問 | 出題分野・テーマ | 設問内容・特徴・解答の注意点など | 小問数 | 配点 |
|----|----------------------------------|---|-----|----|
| 1 | 小問集合 | 例年通りの小問集合問題であった。宮城県では初めて箱ひげ図が出題された。選択問題ではあるが、四分位数の意味を理解していないと解けなかっただろう。 | 8 | 26 |
| 2 | 平面図形 2乗に比例する関数 標本調査 規則性 | 基本的な内容であるものの、条件の読み取りなどに十分に注意が必要であった。3で出題された標本調査では、文字で個数を表すこと、方程式を作ること、解答の吟味など、正答するまでに設定されたステップを一つ一つクリアすることが重要だった。 | 8 | 32 |
| 3 | 確率 1次関数の利用 | 昨年度に引き続き確率と1次関数が出題された。今年度はその2単元がやや横断しており、例年よりは解きにくかったかもしれない。1次関数は面積に関する問題が2題出題された。そのうち、三角形の頂点を通らない面積二等分の問題は、前問の誘導を理解できれば解くことはできたかもしれないが、難易度は高かったといえる。 | 5 | 21 |
| 4 | 平面図形 | 昨年は円、相似、三平方の定理が融合された問題であったが、今年度は台形を主とした平面図形が出題された。最終問題も手数は必要になるものの、過去5年の入試問題の中では易しい分類であった。 | 4 | 21 |

<学習対策>

入試で点数を取るためには、第一問と第二問での小問集合や分野別の問題で点数を確実に取ること、第三問では条件設定を素早く正確に読み解く文章読解力が必要となる。第四問で出題される図形は平面図形が出題され続けているが、最終問題は例年難度が極めて高い。教科書の復習だけで高得点をとることは難しいので、合格点を取るためには、第一問、第二問を素早く解ききり、文章読解に時間が必要な第三問と思考力が必要な第四問に時間をかけられるように時間配分を意識して問題に取り組むようにしよう。

<全体分析>

| | | | |
|------|-----|-----|-----|
| 解答時間 | 50分 | 問題数 | 30問 |
|------|-----|-----|-----|

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

| | | | |
|--------|----|------|------------------------|
| (1) 構成 | 大問 | 5 | 問構成 |
| (2) 分量 | | 変化なし | ← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 |
| (3) 難易 | | 変化なし | ← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化 |

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

昨年度の出題形式を踏襲する問題構成であり、大きな変化は全くなかった。新出単元の仮定法や原形不定詞に関しての出題はなかった。第四問の長文読解は昨年度同様ディベート形式のものだったが冒頭に「先生の提供した話題」とされる英文が加わり全体の分量は増えた。しかし、全体を通しても解答を見つけやすい問題が多いので、平均点は昨年度とほぼ同じであることが予想される。また、例年同様、教科書の隅々まで単語や熟語の学習をする必要がある。

<大問分析>

| 大問 | 出題分野・テーマ | 設問内容・特徴・解答の注意点など | 小問数 | 配点 |
|----|----------------|--|-----|----|
| 1 | リスニング | 出題形式は例年通り。問題4の記述は3年連続英問英答形式であった。テーマとして「自分の町は小さな町だが気に入っている理由」であった。「(施設)がある」・「人々が親切である」等幅広く解答できる内容であった。 | 8 | 25 |
| 2 | 文法 | 昨年同様易しい。例年通り熟語の知識を問う選択問題(wait for)が出された。上位校を受験する生徒であれば全問正解は必須である。 | 7 | 20 |
| 3 | 長文読解① スピーチ文 | 分量は昨年度と同等である。問題構成も昨年度と同様だった。英問英答での聞かれているSVで答えること、日本語記述での本文の内容をもれなく訳しているかという点がポイントとなるだろう。 | 5 | 18 |
| 4 | 長文読解② ディベート | 昨年同様ディベート形式での出題であった。冒頭に「先生が提供した話題」の英文が加わり、そこからグラフの読み取り問題が新たに追加されたが、非常に解きやすい問題となっている。問題文中では後置修飾が多く出されていたのでそれもふまえて問題文を正確に訳せるかがカギとなる。 | 8 | 26 |
| 5 | 英作文 | 会話文から「オーストラリアに住んでいる友人にどんな本をあげればよいか」という問いに3文以上の英語で答える。日本の絵本・マンガあるいはガイドブックどちらかを選び、理由も踏まえて書く形であった。その友人が日本語を習っているという背景を捉えて適切な内容を書きたい。 | 2 | 11 |

<学習対策>

近年、文法と長文いずれも解きやすいものとなっておりナンバースクールを目指す上では90点以上は間違いなく取りたい。そのためにまず土台となる教科書の英単語・連語・文法を1年生内容から隈なく確認すること。そのうえで長文問題に対して早い段階で慣れておきたい。長文問題に関しては英問英答での代名詞や動詞での間違いや日本語記述での訳し忘れ・時制ミスに注意すること。英作文についても、使える表現や文法事項の引き出しの数を多く持つことが重要である。そのため、多くの問題をこなし添削をしてもらうようにしよう。

社会

<全体分析>

| | | | |
|------|-----|-----|-----|
| 解答時間 | 50分 | 問題数 | 30問 |
|------|-----|-----|-----|

・構成・分量・難易度の変化 (前年対比)

| | | | |
|--------|-----------------------------|---|-----|
| (1) 構成 | 大問 | 6 | 問構成 |
| (2) 分量 | 変化なし ← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 | | |
| (3) 難易 | 変化なし ← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化 | | |

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

昨年と同様、6題構成である。記述問題は例年通り5問で、社会の知識というよりも資料をまとめる国語力が求められる問題が多かった。

<大問分析>

| 大問 | 出題分野・テーマ | 設問内容・特徴・解答の注意点など | 小問数 | 配点 |
|----|----------------------------------|---|-----|----|
| 1 | 【歴史・公民】 平等権 | 記号問題が4問、語句の記述が1問。公民と歴史の基礎知識を問う問題が4問、資料読み取りが1問という構成である。難易度は高くないので、満点をとりたいところである。 | 5 | 15 |
| 2 | 【地理・歴史】 東南アジアの 経済発展 | 昨年度は日本地理からの出題だったが、今年は世界地理が第二問に来ている。現代史の分野の記号問題が1題、他は地理分野の問題。記述は資料にある文章をまとめるタイプのもので、過去問を解いていれば十分対応できる問題である。 | 5 | 17 |
| 3 | 【歴史】 古代から 近世における 農村のようす | 記号問題や用語の問題は標準レベル。記述は、貨幣経済が農村にも浸透したことが、小作人が増える一因となったことを説明するもので、資料だけでも書けなくはないが、きちんと答えるには教科書よりやや深い知識を持っている必要がある。 | 5 | 17 |
| 4 | 【公民】 財政と私たちの生活 | 記号問題や用語を書く問題は昨年同様、それほど難しいものではない。この記述も、基本的に資料をまとめるタイプであり、グラフをどう利用するかという点がやや難しい。国語力が要求される問題である。 | 5 | 17 |
| 5 | 【地理・歴史】 中部地方 | 今年は第五問で日本地理が出題された。雨温図の選択等、頻出問題が並んだ。記述はよく出るテーマのものだが、どこまで詳しく書くべきか戸惑う受験生もいたと思われる。過去問演習をしっかりやっていたかどうか問われる問題である。 | 5 | 17 |
| 6 | 【歴史・公民】 日本の文化と発展 | 記述問題も含めて、受験生であれば何度も目にしているであろう基本的な問題が並んだ。苦手とする受験生が多い、歴史上の出来事の並べ替え問題が1題出題されたが、これも難しくなかった。全問取りきりたい大問である。 | 5 | 17 |

<学習対策>

例年通り記述問題の難易度がやや高い。まずは教科書をよく読んで理解し、記述のベースとなる知識を身につける必要がある。そのうえで、過去問演習で複数の資料をもとに記述する力をつけるとよい。また、記号問題で失点しないように、地理は用語だけでなく「位置」を、歴史は「事柄」と「時」をセットで覚えるべきである。

理科

ひのき進学グループ 二高一高必勝館・ひのき進学教室・ひのき個別館

令和5年度 宮城県公立高等学校 入学者選抜学力検査分析

<全体分析>

解答時間

50分

問題数

32問

・構成・分量・難易度の変化（前年対比）

| | | | |
|--------|----|------|------------------------|
| (1) 構成 | 大問 | 5 | 問構成 |
| (2) 分量 | | 変化なし | ← 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加 |
| (3) 難易 | | やや難化 | ← 易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化 |

・全体を通しての特徴・傾向・注意点など

記述問題が4題→3題に減少したが、文章量は昨年度より増え、内容も昨年度よりは難しかった。数値を答える問題は4題のまま変化なしで、難易度もほぼ変化していない。単語や単問の出題も平易なものが多かったが、柱状図の問題など、思考を伴う問題が増えた。

<大問分析>

| 大問 | 出題分野・テーマ | 設問内容・特徴・解答の注意点など | 小問数 | 配点 |
|----|---------------|---|-----|----|
| 1 | 小問集合 | オホーツク海気団の性質など確認が抜けやすい部分や、イカの消化管など思考を伴う問題が出題された。表面的な暗記だけでなく、内容の理解が肝要。記述については必要な内容が欠けていないかをよく確認する必要がある。 | 12 | 36 |
| 2 | 生命の連続性 | 題材となっている観察は教科書に記載のある中でも基本的なものであり、解答しやすい内容であった。 | 5 | 16 |
| 3 | 地層から読み取る大地の変化 | 柱状図を利用して地層の傾きを出す問題は頻出の問題よりやや難しい出題であった。一定の傾きであることを踏まえた予測が必要となるため、ある程度の高難度の問題の練習が重要となる。 | 5 | 16 |
| 4 | 化学変化と質量の変化 | 計算問題を除くと基本的な内容であるが、混合物の割合を求める問題は計算の手順がやや多く、苦勞した生徒も少なくないか。グラフと表と問題文をいずれも丁寧に読み取ることが重要。 | 5 | 16 |
| 5 | エネルギーと仕事 | 記述以外は昨年と比べても平易な内容。記述に関しては文章量が多く、論理的な記述が求められるため、論理の飛躍をしないように普段から長文記述の練習を積み重ねておく必要がある。 | 5 | 16 |

<学習対策>

昨年に引き続き、どうしてそうなるのか、といった現象の根拠を正しく理解し、どういう結果が想定されるか、という出題が見られた。表面の暗記だけでなく、この理由でこういう現象が起こるところまでしっかりと理解をして試験に臨むことが必要となる。また、昨年に比べて記述の負荷が明らかに重くなっていた。問題文から、答える必要がある内容をきちんと整理し、抜けがないように練習を重ねよう。